

# 技術士第一次試験に合格して



## 樋口 恵

### 勤務先:

北海道大学大学院薬学研究所  
薬剤分子設計学研究室  
〒060-0812 札幌市北区北  
12条西6丁目  
TEL 011-706-3735

E-mail higuchi@pharm.hokudai.ac.jp

専門：生物工学部門

## 1. 自己紹介

私の出身は北広島市で、2年ほど前まで同市に住んでおりました。高校・大学は札幌で、大学は志望した学部に入學できず漠然と目的の無い学生生活を送っていましたが、研究室配属の際に“自分の夢に少しでも近い事を”と思い立ったのが運の尽き(?)、これからも長く付き合うであろうバイオ実験をスタートさせる事になりました。院を含めた研究生活は終電や泊まり込み、徹夜は当たり前というハードなもので、運良くある程度の成果を残す事が出来ました。

学生生活のうち3年というわずかな間ではありましたが、その期間に培った知識と技術を生かそうと、卒業後に勤務したのは全てバイオ実験が出来る職場でした。しかし、札幌には博士号無しで生物関係の基礎研究をパーマネントで出来る様な職場は殆どありません。それでも現在の職種を捨てきれず非常勤で生きているのは、この職種が昔断念した夢、“人の命を救う”事に少しでも擦っているからなのかも知れません。学生時代から現在まで、同業種の研究室や職場を転々としていますが、自分の経験を生かしながらスキルアップを目指すにはもってこい(?)の毎日です。

## 2. 受験体験

「技術士」という資格の存在は社会人1年目の時に知りました。が、当時仕事を始めたばかりであたふたしている自分に受験してみようという気は微塵も

ありませんでした。

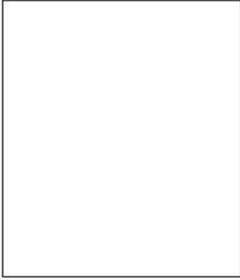
社会人としてようやく落ち着いて来た昨年、前年度試験に合格した同僚に受験を勧められました。力試しも兼ねて受験を決心したのですが、仕事が忙しくなかなか準備に取りかかる事ができないまま試験日が近づいてしまいました。時間がある時に各科目の過去問に目を通して見たところ、適性科目と基礎科目は読んで理解できるレベルでしたが、専門科目に関しては自分の知識不足を痛感する事になりました。自分が今まで専門に実践してきた事はあまりにも世界が狭いんだ、これは大変だ!と焦り、一か八かの勉強法を取る事にしました。

何しろ時間が足りなかったのが、帰宅後過去問のみで試験対策を行い、専門科目は自分が完全に知識を持っている問題を飛ばして過去3年分くらいを丁寧に解きました。選択肢に出て来る、知らなかったりあやふやだったりする単語はネットを駆使して関連用語も一緒に調べました。専門科目以外は解説を集中的に読んでおきました。この勉強法が良かったのか運が良かったのか試験当日自分に神が舞い降りたのか(多少は経験の貯金を信じた所ですが)、試験にはどうにか合格する事ができました。正直、合格できるとは思っていませんでしたが、合格発表の日に諦め半分で技術士会のHPを見て、どうしてこの番号になったのか解らないほど目立ちすぎる受験番号を発見して何度も受験票を見直したものです。

## 3. 今後に向けて

今回の受験は、専門分野の技術者を名乗るには自分はまだまだ経験も知識も考えも浅く、あらゆる面で勉強不足である事を思い知る良い機会となりました。また、他部門の技術者の方々のお話を聞かせて頂き、幅広い分野に興味を持ち知識を得る事がとても大切だと感じました。

既に二次試験の受験資格はありますが、もっと実力をつけてからの受験を考えています。もちろん、第二次試験に合格し、技術士の名に恥じぬ行動ができる自分を目標としています。



## 唐箕 基

### 勤務先:

アルスマエヤ株式会社  
技術部環境保全対策室  
〒004-0054 札幌市厚別区  
厚別中央4条3丁目7-17

TEL 011-891-1280

FAX 011-894-4703

E-mail m-toumi@als-maeya.co.jp

専門: 森林部門 (森林土木)

### 1. 自己紹介

私は栗沢町に生まれ、その後は父親の転勤で夕張・芦別・美唄と旧産炭地を中心に過ごしてきました。この山間地では友人達と良くクワガタやトンボなどの昆虫を取りに行きました。当時はファミコンなどの玩具は無く、昆虫など自然が遊び相手でもありました。

その影響か森林系の現会社に入社し担当業務も治山事業、保安林解除・整備など森林関係の業務に入社以来携わっております。業務に際してヒグマ・スズメバチ・ダニ・マムシ更には2~3mにも及ぶ笹類、欠損した道路など山には障害が多く、調査の度に苦慮しております。しかし恩恵も多く、春・秋の山菜、紅葉そして新鮮な空気などで癒されております。

実際、昼夜にかけての内業で疲れた心身も、調査終了時には、逆に元気になっていることが多いのです。山奥の調査はつらいこともありますが、この厳しい業務に従事していることが、最近では逆に誇りに思うようになってきております。

### 2. 受験体験

2回目の受験で合格しました。1回目は運試しにと気軽に受験したので、当然のごとく不合格という結果でした。点数は悪く、特に基礎科目は惨憺たるものでした。“これは真剣にやらないと駄目だ”と次

年度は、気合を入れて取り組むことにしました。

繁忙期と重なるのですが、何とか1ヶ月程の対策時間を設けました。毎日、時間の確保に難儀して、仕事の終了が遅い場合は、深夜過ぎ・未明まで集中して取り組みました。幸い専門科目は日頃の蓄積なのか、及第点はとれる見込みができたので、基礎科目に重点を絞りました。しかしコンピュータ関連が全く理解できず、あきらめ半分の中で試験に臨みました。

試験当日は、秋晴れで暖かく、北大構内を気持ち良く歩いたのを思い起こします。森林部門の受験者は少ないのですが、会場では顔見知りも多く、「毎年の恒例行事だから」と挨拶を交わしながらの、試験開始となりました。昼休みに最後のあがきと、最終確認をしようとする、昔お世話になった先輩に「いまさら遅い、昼飯に行くぞ」と誘われ断ることができず、しぶしぶ同行をしてしまいました。意志の弱さを嘆きつつ、午後の専門・基礎科目に挑むことになりました。終了後、先輩に、「また来年会おう」と声を掛けられ別れたのでした。しかし先輩には、今回は一人で昼食を取ってもらうこととなりました。

### 3. 今後に向けて

当然2次試験合格であります。どんなに急がしくとも、毎日少しでも教本を開くことを心掛けようと思います。技術士になる為には、どのような小さな業務においても、常に問題意識を持ち、より踏み込んで考察しながら取り組む必要があると考えます。

当社は、山に自ら立ち入り、調査・計画、設計を行うことが基本であります。身体的には、かなりの負担ではありますが率先して現場に入ること、より実態に近い現地に相応した技術問題に接することができるはずと考えます。

社内での指導は無論のこと、外部に対しても専門家として、的確な技術提案等が出来るように、関連業務のみならず広義に渡った知識並びに技術を習得できるよう努力をしていきます。



## 小松 麻美

### 勤務先：

財団法人 日本気象協会  
北海道支社ソリューション  
部 情報開発課

〒064-8555 札幌市中央区北4条西23丁目

TEL 011-622-2244

FAX 011-622-8398

E-mail komatsu@jwa.or.jp

専門：応用理学部門

### 1. 自己紹介

私は大阪で生まれ育ちました。中学校の理科で習った天気図で気象への興味が芽生え、高校時代に読んだ中谷宇吉郎の「雪」に触発されて、大学から北海道にやって来ました。

大学では理学部の地球物理に所属して、気象学を専攻し、南極の局地風をテーマに研究を進めました。

大学院修了後、現在の職場で働き始めました。気象予報から調査・解析、システム構築に至るまでの幅広い業務内容について1年間研修を受けた後に、現在の部署に配属となりました。現在は北海道の気候特性に適した情報を提供するため、主に雪氷系のデータ解析や現場に出て観測データの取得などを行っています。

### 2. 受験に至るまで

技術士という資格は社会人になって初めて知りましたが、職場で技術士の資格取得を推進していたことから、受験を考えるようになりました。

試験内容を調べる中で、「技術士」は科学のある分野の専門家の証明という側面とともに、専門家であり続けるために資格取得後も研鑽が必要であるということも他の資格とは大きく異なる、不思議な資格だと思いました。

### 3. 応用理学部門の受験

私は技術士第2次試験の受験資格を得るには経験年数が足りませんでした。まず自分の受験可能な部分から一歩ずつ進もうと、第1次試験受験を決めました。

社内の合格者の先輩に話を聞き、第1次試験対策は過去問を解くことに専念しました。基礎科目・適正科目は問題集がたくさん出版されていますので、自分で確認して感覚が合うと感じた本を選ぶとよいと思います。

私が苦勞したのは専門科目でした。建設、土木、環境部門の問題集はたくさん揃っていたのですが、応用理学部門は少なかったため、技術士受験対策のホームページ掲載の過去問を用いて学習を進めました。応用理学部門の専門科目は地質分野の出題が多く、気象学専攻の私にとって、高校地学や大学の教養科目を必死に思い出す、苦勞が多いものでした。

しかし、どの科目にも通じることですが、受験勉強中も、実際に試験を受けている時も「決して諦めない」ということが大事と思いました。

### 4. 今後に向けて

無事に第1次試験に合格しましたが、第2次試験受験にはあと数年経験年数が必要です。現在の業務は気象学だけではなく、農業や道路・交通など幅広い分野と関連があり、自分の技術や専門性をどの分野に伸ばしていくのか、今はまだ試行錯誤の時期です。第2次試験受験の頃には、自分の専門について堂々と語る事が出来るようになりたいと考えています。

技術士会の1次試験合格者歓迎会に参加した際には、職場のつながりだけではなかなか出会うことの出来ない、経験豊富で活動的な諸先輩方と話すことが出来、非常に刺激を受けました。これからは日本技術士会の多分野にわたる技術士の先輩方と交流することで、広い視野の取得や“伝える技術”の向上など、更に技術者としての力を付けていきたいと考えています。



## 千葉 了

### 勤務先：

株式会社 田中建築設備事  
務所 設計部

〒060-0061 札幌市中央区  
南1条西7丁目20番1号

TEL 011-221-1262

FAX 012-221-1276

E-mail s-chiba@tk.s.bz

専門：衛生工学部門

### 1. 出会い

決して勤勉とは言えない学生生活を終え、現在の会社に勤務することになった私も、地方ではありますが工業大学の出身ですので「技術士」の存在は当時から頭の片隅に覚えていたと思います。しかしながらその価値や技術者に委ねられた使命や責務などについて当時は全く認識していなかったと思います。

お粗末なくらい緊張感が欠如した社会人生活のスタートでしたが、会社での業務の重さや過酷さは容赦なく学生気分の抜けない1年生にのしかかってきました。眼前の業務をこなすのに精一杯です。新入社員にはありがちだとは思いますが1・2年目の間はただひたすら、もがき走った思い出が大半です。

そんな折、入社3年目だったと思いますが、私の隣席の先輩社員が技術士試験に挑戦していることを知りました。恐らく「技術士」をしっかり認識したきっかけだったと思います。いつかは挑戦したいな、おぼろげに目標にしたつもりでした。とはいえ、実務に追われる上に、知識も経験も乏しい自分には恐れ多くて、まだまだ先の話だと思いましたが。当時、私と同様に、いえ、私以上の激務をこなしていたはずの先輩社員が、その年に見事合格されました。

それから10数年、相変わらずマイペースでこの世界に身を置いてきました。自分自身がどれくらいの経験を積んできたのかを量ってみるのには良い機会

かと思い1次試験を受験したのが一昨年です。結果的には2回目での合格でしたがこれで本当の意味での腕試しが出来る位置に来たのかと思っています。

### 2. 2次試験に向けて

1次試験合格者歓迎会では諸先輩方よりたくさんの激励や良きアドバイスをいただきまして、ありがとうございました。大変励みになったのは言うまでもなく、2次試験に向けて心新たに向き合う事が出来たと思います。

また、数年来、本支部より衛生工学部門の合格者が出ていない事も聞きました。改めてハードルの高さ、問われる知識や技術の幅広さや深さを再確認しているところです。もとより相当な努力を覚悟していましたが、知識を広げようとするとその深さに驚き、まさに手探りで知識を会得する過程は有名な諺通りと言ったところでしょうか。

### 3. これから

正直なところ「こうする」「こうなる」といった具体的なビジョンは今のところ描けてはいません。なんとも恥ずかしい話ではありますが。ただ、現在おかれている環境、職務、立場を踏まえた上で、何をもちて社会に寄与出来るのかを考えた場合、やはり自然環境や人に影響が少なくかつなるべく多くの人が快適さを得る事ができる生活環境を建築設備の面から、その他のハードとの関わりやバランスを保ちつつ構築する、と言うことに帰着するのではないかと考えます。

今までと同様にこれからもまだまだ技術者としては学ぶべきことが沢山ありますし、経験として体で会得しなくてはならない事も多くあります。技術士試験に挑戦するということは資格としてのタイトルを得るばかりではなく、今後技術者として歩んでいく中で、更に多くの経験や知識を得る一つの手段であり、方向性を定めるための道標でもあり、日常の研鑽を怠らない為のお目付役を携えることでもあると考えています。